

日本結核病学会東海支部学会

—— 第121回総会演説抄録 ——

平成25年6月22・23日 於 名古屋市中小企業振興会館（名古屋市）

（第103回日本呼吸器学会東海地方学会
第6回日本サルコイドーシス/肉芽腫
性疾患学会中部支部学会 と合同開催）

会 長 堀 口 高 彦（藤田保健衛生大学医学部呼吸器内科学Ⅱ講座）

—— 一 般 演 題 ——

1. 左下葉空洞性病変の精査中，急激に全身状態が悪化して死亡した，びまん性大細胞B細胞性リンパ腫（DLBCL）の1例 °杉本昌世・林 信行・日比野佳孝・浅野俊明・山田祥之（JA愛知厚生連江南厚生病呼吸器内）福山隆一（同病理診断）

症例は82歳女性。紹介4カ月前に他院で間質性肺炎と診断。近医に通院していたが，2カ月前から労作時呼吸苦が増強して，在宅酸素療法が導入された。その後8kgの体重減少と咳が悪化したため当院に紹介。胸部CTで両肺野の網状影に加え，左下葉に空洞性病変を認め，精査目的で入院した。画像上，肺癌や肺化膿症，結核などの鑑別が必要であり，気管支鏡検査を施行。しかし，全身状態が急激に悪化して，入院14日目に死亡された。後日，病理所見でびまん性大細胞B細胞性リンパ腫（DLBCL）と判明した。

2. 頸部リンパ節腫脹から1.5年の経過で胸囲結核を発症し診断できた肺外結核の1例 °小林大祐・松浦彰伸・小林直人・矢口大三・志津匡人・市川元司（岐阜県立多治見病呼吸器内）伊藤正夫（同呼吸器外）

結核性胸膜炎の既往のある74歳男性。X年8月，右深頸部，縦隔リンパ節腫大あり初診。計3回の針生検が行われたが診断に至らず。前胸部に皮下腫瘤を形成。腫瘤内

部の膿汁より結核菌を同定し胸囲結核と診断。HREZの4剤治療を行い，切開排膿のみで治癒。本症例は，悪性疾患を念頭に置いた検索が行われた結果，結核の診断が遅れたと考えられた。

3. 左拇指基節骨結核性骨髄炎の1例 °竹内 章・西尾昌之・黒川良太・富田広樹・原田夏菜子・笠井大嗣・吉川公章（大同病呼吸器内）坂井宏章（同整形外科）

症例は26歳女性。主訴は左拇指腫脹。前医にて左拇指基節骨生検を施行。肺結核・骨結核と診断。当院にて4剤治療を開始。臨床症状軽減後，当院整形外科にて病巣搔爬術および二期的骨移植術施行。現在は経過良好である。今回，稀な結核性疾患である拇指基節骨骨髄炎症例につき報告する。

4. 呼吸器検体培養にてアスペルギルス陽性であった肺非結核性抗酸菌症の評価・治療について °内藤雅大・畑地 治・伊藤健太郎・渡邊文亮（松阪市民病呼吸器センター）田口 修（三重大呼吸器内）

近年，肺非結核性抗酸菌症と肺アスペルギルス症の合併例が散見される。当院において，2006年1月から2012年9月までに，呼吸器検体培養にてアスペルギルス陽性であった肺非結核性抗酸菌症症例の評価・治療について，文献的考察を加えて検討した。